

2023年度
八戸学院大学
別科助産専攻
別科助産専攻選抜

母性看護分野

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かない。
- 2 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用する。
- 3 問題冊子に印刷不鮮明、ページの落丁などがあるときは、手を挙げて監督者に伝える。
- 4 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

1. 女性は成熟すると月経期・卵胞期・黄体期と性周期を繰り返す。以下は性周期に伴う生理的変化の文章である。正しいものに○、誤っているものに×を書きなさい。

- ① 視床下部から分泌されるゴナドトロピン放出ホルモン（GnRH）は下垂体後葉に働きかける。
- ② 黄体形成ホルモン（LH）と卵胞刺激ホルモン（FSH）はエストロゲンの分泌を促す。
- ③ エストロゲンが GnRH と LH の分泌を抑制することをポジティブフィードバックという。
- ④ プロゲステロンは骨の吸収抑制作用を有し、骨量を維持する方向に導く。
- ⑤ 子宮内膜の増殖期は卵巣周期の黄体期と同時期に該当する。
- ⑥ 血中のエストロゲンが上昇すると、下垂体前葉から LH の急激な放出が起こる。
- ⑦ 排卵後の卵胞は白体と呼ばれエストロゲンとプロゲステロンを分泌する。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
---	---	---	---	---	---	---

2. わが国では 2018 年に「成育基本法」が成立し母子保健の取り組みは新たな段階に入っている。以下は母子保健に関する文章である。正しいものに○、誤っているものに×を書きなさい。

- ① 日本で 2019 年の第 1 子を出生した母親の平均年齢は 34.7 歳である。
- ② 日本での 2021 年の合計特殊出生率は 1.23 で、6 年連続で前年を下回った。
- ③ 妊娠の届け出を受け取った市町村長は母子健康手帳を交付するが、これは母子保健法で定められている。
- ④ 厚生労働省が示す妊婦健診受診の頻度は妊娠 26 週では 2 週間に 1 回である。
- ⑤ 健やか親子 21 は、2000 年に第 1 次計画が策定され、2015 年には第 2 次計画がはじまった。
- ⑥ 労働基準法には女性労働者の保健指導または健康診査を受けるための時間の確保が定められている。

①	②	③	④	⑤	⑥
---	---	---	---	---	---

3. 陣痛が10分間隔に発生した時を分娩開始というが、それに先立って分娩開始前兆として母体に起こる変化を10個あげなさい。

4. 以下は胎児の特徴と新生児が胎外生活に適応する過程に関して述べた文章である。()にあてはまる言葉を書きなさい。

胎児は(①)を介してガス交換を行っている。胎児の肺内は(②)で満たされている。

(②)は、出生時(③)を通過するときに、肺胞や気道内の分泌物は鼻や口から排出され、肺循環中に吸収される。帝王切開術で出生した新生児は、(③)を通過せず、(②)の吸収が遅延する可能性があり、(④)という呼吸障害となるリスクが高い。かたや、分娩が遅延し胎児低酸素やアシドーシスが原因となり胎便で混濁した羊水を気道内に吸引することで起こる(⑤)という呼吸障害もある。

新生児の肺胞に空気が入ることで表面張力が働くが、新生児の成熟した肺には十分に(⑥)が働いていることが必要である。早期産で出生した新生児は(⑥)の産生がなされないことにより、多呼吸、呻吟、陥没呼吸、チアノーゼを症状とする(⑦)という呼吸障害となる可能性が高い。

成熟した新生児は1回換気量が少ないので、成人より(⑧)を多くして代償している。新生児は、数秒から10秒程度の休止期間の後に再び呼吸を開始することがある、これを(⑨)という。

新生児の肺呼吸が確立すると、肺血管抵抗が低下し、肺の血流量が増加して、(⑩)は閉鎖に向かう。左心房圧の上昇と肺血管抵抗の減少による右心房圧の低下によって、(⑪)の機能的閉鎖が起こる。この機能的閉鎖までは生後数分といわれている。早期産で出生した新生児は、在胎週数が早いほど、体重が小さいほど(⑩)は閉鎖しにくい。閉鎖しない場合の疾患を(⑫)という。

①		②		③	
④		⑤		⑥	
⑦		⑧		⑨	
⑩		⑪		⑫	

5. 以下の事例を読んで【退行性変化】【進行性変化】【新生児の状態】についてアセスメントし、産褥2日目と出生2日時点での看護の方向性を書いてください。

○初産婦 32歳 妊娠38週6日、自然分娩、会陰裂傷Ⅱ度、医師により縫合術が行われる。出血量450g、分娩所要時間14時間40分。出生体重2,830g、男児、アプガールスコア1分後8点、5分後9点。分娩直後に早期母子接触を行った。新生児は乳頭をなめる程度であった。

○産褥1日：体温36.8℃、脈拍76回/分、血圧112/70mmHg、子宮底臍下1横指、子宮は硬式テニスボール様の硬さ。乳房Ⅱa型、乳頭は耳たぶくらいの硬さ、損傷なし。乳輪部やわらかい。産褥1日目より母児同室開始となり、2～3時間おきに直接授乳を行っている。乳汁分泌みられず、浅飲みとなっている。

○産褥2日：体温36.8℃、脈拍78回/分、血圧120/78mmHg、子宮底臍下2横指、子宮の硬さは1日目と同様。悪露赤色、少量。朝食は全量摂取、2～3時間おきにトイレ歩行し、自然排尿あり、創部の異常なし。乳房緊満軽度出現、発赤なし、疼痛なし、硬結なし。乳管開口数7～8本、両側乳頭に発赤あり。頻回授乳をしている。母乳育児について「できれば母乳で育てたいが、絶対に母乳で、というわけではない。」と話す。

○出生2日：新生児は直接授乳後に人工乳を20～30ml追加している。心拍数120回/分、呼吸数42回/分、体温37.3℃、体重2,740g。モロー反射あり、姿勢WM型、鼻尖部に白い皮脂腺あり。

【退行性変化】

アセスメント

看護の方向性

【進行性変化】

アセスメント

看護の方向性

【新生児の状態】

アセスメント

看護の方向性